

(11) 馬方は大喜びで、藤樹先生に、礼を言いました。

馬方 「だんなさま、ありがとうございます。だんなさまが手伝つてくれたので、こんなに早く荷車があげられました。この恩は、一生忘れません。ほんとうにありがとうございました。」



藤 「良かつた、良かつた。でも、決して私一人だけの力ではありません。村の皆さんのがいつしょになつて、力を貸してくれたのです。お陰です。(温かい声で) お

礼は皆さん言つてください。

馬方 「馬方さん、ごめんな。

馬方 「皆さんのが力を合わせて、助けてくださいからこそ、楽に荷車を上げることができました。うれしかつたです。」

村人2 「藤樹先生が、迷わず馬方を助けに行かれた時は、びっくりしたなあ。困っている人がいたら、すぐには、親切にしなくてはいけないことが、よく分かった。」



馬方 「はあ、藤樹先生といたすかたです。か。ほんとうに、親切で心のやさしいお方ですね。」

村人2 「藤樹先生が、迷わず馬方を助けに行かれた時は、びっくりしたなあ。困っている人がいたら、すぐには、親切にしなくてはいけないことが、よく分かった。」

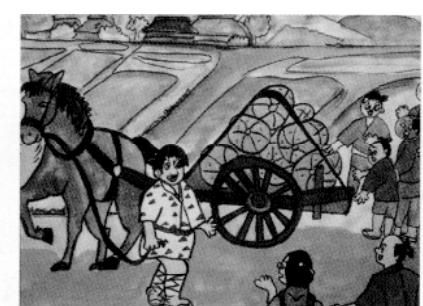
「藤樹像を求めて」(3)

日野小学校の先生から、町内の西大路小学校の校庭にも藤樹先生の像があることをお聞きして、早速、その西大路小学校に行くことにしました。

そこは、ブルーメの丘のすぐ麓に位置する伝統ある学校でした。案内された校長室の本棚の目立つところに、『中江藤樹全集』が納めてあることに驚きました。校長先生に藤樹像が設置されましたが、経緯等をお聞きしましたが、詳しいことは分からぬとのことでした。



旧豊郷小学校校舎の藤樹像



こ、クリ公
もにこにこ
と、うれし
そうな顔で
別れまし
た。
おしまい

藤樹像は、西門（旧の正門）を入れた正面にありました。意外にもその藤樹先生は大変ふくよかで、親しみ深い表情をされていました。収穫のある日野町への旅でした。



西大路小学校の藤樹像

(12) 藤樹先生は、にこにこ笑いながら、足のどろを洗い、着物のどろをはらうと、何事もなかつたかのように、立ち去りました。

馬方 「皆さん、ありがとうございます。お陰で、荷車を引き上げることができます。あのだんなさまと皆さんの立派な荷車を上げることができました。うちしかつたです。」

村人1 「このあたりは、まだ、あちこちの道がやわらくなつていると思うよ。気をつけて行きな。」

馬方 「分かりました。気をつけてまいります。」

村人たち 「では、馬方さん、さようなら。」

馬方 「皆さん、さようなら。」

馬方はにこにこ、村人たちもにこにこなりつぱな人だよ。」

馬方 「はい、どなたさままで?」

村人1 「藤樹先生といつてな、村の